

令和 4 年 6 月 5 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K05703

研究課題名(和文)「地域資源」としての都市緑地のあり方に関する研究

研究課題名(英文) Study on future aspects of urban green as local resources

研究代表者

下村 彰男 (SHIMOMURA, AKIO)

國學院大學・観光まちづくり学部・教授

研究者番号：20187488

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：都市緑地は地域の個性や特性を再認識したり洗練したり、コミュニティの再構築や自立を支援する「地域資源」としてのあり方が模索されるようになってきた。本研究は、地域資源としての都市公園の現状とあり方について、地域の自然的・歴史的な文脈の継承と、地域コミュニティの再構築という2視点から見直すことを目的とした。

そして文献資料調査や先進事例調査を踏まえて、地域資源という観点から都市緑地を把握する方法について試作するとともに、東京都の近隣公園を対象地として現地調査を実施し、現状について把握・評価した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代においては、都市の公園や緑地等(都市緑地)は均質な「みどり」として捉えられ、人工化する都市環境において人々が自然とがふれ合い楽しむための空間を公平に平等に提供することを目的として、機能性と量的目標にもとづき整備が進められ、その計画論も組み立てられてきた。

それを地域の歴史的・自然的な文脈の継承とコミュニティの再構築支援に貢献するとの新たな視点に立って、「地域資源」としての都市緑地という新たな視点から、評価指標および計画論の再構築を試みている点に独自性があると考えている。

研究成果の概要(英文)：Urban green spaces have come to be sought as "local resources" that support the restructuring and independence of communities by re-recognizing and refining the individuality and characteristics of the region. The purpose of this study was to review the current state and ideal state of city parks as local resources from the two perspectives of inheriting the natural and historical context of the area and reconstructing the local community.

Then, we conducted a field survey targeting neighborhood parks in Tokyo and made a method for evaluating urban green spaces from the perspective of local resources.

研究分野：風景計画学

キーワード：地域資源 資源管理 都市緑地・公園 歴史的な文脈継承 自然的な文脈継承 コミュニティ再構築

1. 研究開始当初の背景

近代において、都市の公園や緑地等（都市緑地）は均質な「みどり」として捉えられ、人工化する都市環境において人が自然とがふれ合い楽しむための空間として量的な目標にもとづき整備が進められてきた。しかしながら社会の状況や価値観の変化に伴い、「公園」や「緑地」の概念（捉え方）が大きく変化してきており、行政においても、関連する法制度を改正したり新たな事業展開なども検討・試行されるようになってきた。

そして、都市緑地の自然環境としての側面だけでなく社会・文化的側面への認識が高まっていることや、「公」である行政が「民」に緑地を提供し管理するといった図式にも変化がみられ、民（共・私）の関与をとおして地域づくりや地域コミュニティの醸成に活用していこうとする動きも見られるようになってきた。その結果、都市緑地に関して、地域の個性や特性を再認識したり洗練したりすることや、コミュニティの再構築や自立を支援する「地域資源」としてのあり方が模索されるようになってきた。

2. 研究の目的

本研究は、上記のとおり、都市緑地（本研究では、公園や緑地、街路樹、庭木の集合体等、緑のランドスケープ全体を意味する）に対して、「地域資源」としての位置づけがなされてきたとの背景のもと、都市緑地が地域の価値を高めていくうえで、地域の自然的・歴史的な文脈をいかに継承すべきなのか、また、地域コミュニティの再構築にいかに貢献し得るのか、の2点について、現状を把握するとともに、その方法論に関する検討を深めることを目指したものである。具体的には、以下の3点を目的とした。

つまり、公平性、均質性、機能が優先されてきた近代における都市緑地の概念と計画論を、地域資源性という視点から再構築試みている点に独自性がある。

- ① 地域の自然的・歴史的な文脈の継承に関する現状を把握するとともに、継承する文脈情報を区分整理するとともに、都市緑地の形態（要素、パターン）との関係について整理する。
- ② 広義の地域コミュニティ施設整備の現状を把握するとともに、対象地の施設や利用の状況と地域コミュニティ施設の誘発状況との関係について整理する。
- ③ これらの調査・検討をとおして、都市緑地の「地域資源性」を把握・評価する方法について検討を行うとともに、その枠組みを用いて、現状を把握・評価する。

3. 研究の方法

研究の方法としては、まず、課題に関連する文献・資料調査を実施するとともに、東京都の都立公園において現地プレ調査を実施し、都市公園を中心とした現状の都市緑地について、土地の歴史的・自然的な文脈の継承、およびコミュニティの拠点という観点、つまり「地域資源」としての性格を把握・評価する枠組みの検討を行った。その際、大阪および北九州、福岡における先進事例調査をも交えて検討を行い枠組みの試作を実施した。

そして、試作した枠組みを用い、東京都における近隣公園を調査対象として現地調査を実施しつつ、枠組みの完成度を高める検討をも並行した。調査対象として近隣公園をとりあげたのは、都立公園など面積の大きな公園は、地域資源としての性格のみならず、緑地としての多様な機能を満たすことが求められることから、調査結果が複雑になってしまうことを避けるためである。ただ、近隣公園は全数調査が難しいことから、東京都の地形を、平地域、境界域（斜面域）、台地域に3区分し、13区、51公園の調査を実施した。平地域としては、江東区、足立区など、境界域としては、港区、板橋区、北区など、台地域としては、杉並区、中野区、練馬区などにおける近隣公園が含まれる。

4. 研究成果

本研究では、文献・資料調査そして、東京都の都立公園における現地プレ調査を実施するとともに、他都市等における先進事例調査を通して調査の枠組みを検討し、基本的にはその枠組みにもとづく記録フォーマットを試作して現地調査を実施した。①に関しては、地域が継承すべき自然的・歴史的な文脈としてどのような事柄があるのか、また、その文脈をどのようなものや事象を通して人々に伝え得るのかを記録するフォーマット。そして②に関しては、地域コミュニティの強化や再生を支援する施設やイベント等を記録するフォーマットである。これらのフォーマットは、今後の「地域資源」としての都市緑地のあり方を示す枠組みであり、本研究の成果の一つと位置づけることができる。

1) 土地の文脈（コンテキスト）の継承

(1) 文脈把握のための枠組み

文脈把握のための枠組みとしては、公園が継承すべき歴史的・自然的な文脈、つまり「記号内容」と、その内容を伝えるためのものや事象などの「記号表現」、その両者のマトリックスとして整理することができる。

公園が継承すべき文脈（記号内容）としては、歴史的な文脈については、近世、明治・大正期、昭和戦前期といった「時代」、その場所（公園）か広域の地域かといった「スケール」、あるいは関東大震災や戦争といった負の歴史に関しても「災害」として地域の記憶になり得ることを抽出した。自然的な文脈に関しては、地形状況や河川をはじめとする水系状況などの「立地環境」、そして、やはり、その場所の文脈なのか、もう少し広域な地域の文脈かといった「スケール」についても設定した。

また、それらを伝えるものや事象などの手段である「記号表現」としては、モニュメントや建築物といった施設はもとより、解説版や説明板、リーフレットといった文字情報の他、樹種や植生、あるいは緑地の形態といった緑地自身を通して伝え得ることを検討して、歴史的な文脈に関しては「樹木・並木」、「構造物・施設」、「土地利用・地割り」そして、「説明・文字情報」を設定した。自然的な文脈に関しては、基本的に類似しているものの、「動物・昆虫等」が加えることとなった。

（2）枠組みを用いた現状の把握

そして、上記のフォーマットを用いて、都内13区、51の近隣公園を対象に現状把握を行った。その結果が「とりまとめ表」である。これを見ると、多くの公園で歴史的な文脈の継承が行われていることが確認できた。時代的にも、近世以前も含めて各時代の歴史の痕跡が大切に残され示されていることが分かる。ただ、やはり昭和戦後以降のものが多く、これは公園が立地する地形による差異が要因であると考えられ、境界域の公園で各時代バランス良く残されているのに対し、台地域、特に平地域の公園で昭和以降のものに偏った傾向を示している。いずれにせよ、区によって取組みに差があることが示されており、これが区の姿勢（方針）であるのか、地形による歴史性の偏りに起因しているのかの解明は課題として残された。また、スケールに関しても、全体的には場所（公園）の歴史を示すものが多いのに対し、平地域の公園では地域の歴史を示すものが多い点が示された。

また、自然的な文脈に関しては、歴史的な文脈の提示より少ないもの、水系に関わる特徴の提示や、地域の自然的特徴については、比較的多くの公園で提示されている点を確認することができた。また、スケールに関して、こちらについては歴史的な文脈とは異なり、地域スケールの特徴を示すものの方が多かった。いずれにせよ、地域の特性として歴史的な性格の方が認識・提示し易いと考えられる。

2) コミュニティの拠点形成支援

（1）コミュニティの拠点性把握の枠組み

都市公園のコミュニティの拠点としての現状把握および評価の枠組みとしては、大きく「拠点施設」と「情報発信」の2つに整理することとした。

拠点施設については、施設種と立地（設置）場所とのマトリックスで枠組みが整理することができた。施設種としては、事務所や机・椅子などの「集会施設」と、カフェや直売所等の「商業施設」に分けて把握することとした。また、立地場所としては、公園内、境界や入口、公園隣接地等に区分することとした。

情報発信については、（情報）発信形態と情報内容とでマトリックスを構成し、形態に関しては、掲示板、チラシ、HPなどの情報提供と、祭り、コミュニティ活動などのイベントに区分した。また情報内容としては、公園史、地域史そして、公園自然、歴史自然などの、歴史と自然をスケール別に区分したものと、コミュニティ活動の案内や紹介などに区分した。

（2）枠組みを用いた現状の把握

コミュニティ拠点に関しては、まだまだ十分に認識されているとは言い難く、事務所、集会所や机・椅子などの設置は見られるものの、立地については従来どおりであり、拠点形成に資すると考えられる公園と地域との境界域（内外）への設置は、期待していたほどは確認できなかった。同様に、今後重要性を増すと考えられる商業施設を活用するケースもあまり見られなかった。これらは先進事例をとおして、その方法論等について検討を深める必要があると考えられる。

また、情報発信に関しても、事例は確認されるものの、拠点形成に資することを意識しての実施を確認することは難しく、こちらについても先進事例等をとおして検討を深めていく必要があると考えられる。

■とりまとめ表（13区51公園）

<土地の文脈の継承>

【歴史的文脈】

| 記号表現 | 記号内容 | 時代 | | | | 小計 | スケール | | 小計 |
|---------|--------|------|----|-------|------|-----|--------|----|-----|
| | | 近世以前 | 明治 | T・S初期 | 昭和戦後 | | 場所（公園） | 地域 | |
| 樹木・並木 | 単木 | 1 | 5 | 3 | 12 | 21 | 9 | 5 | 14 |
| | 並木 | 1 | 0 | 1 | 6 | 8 | 6 | 1 | 7 |
| | 樹種 | 6 | 2 | 7 | 7 | 22 | 8 | 5 | 13 |
| 構造物・施設 | モニュメント | 5 | 4 | 3 | 12 | 24 | 10 | 10 | 20 |
| | 外構 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 | 5 | 2 | 7 |
| | 家屋 | 6 | 1 | 3 | 2 | 12 | 7 | 2 | 9 |
| | その他 | 1 | 0 | 1 | 5 | 7 | 0 | 5 | 5 |
| 土地利用・地割 | 池 | 7 | 2 | 3 | 5 | 17 | 8 | 5 | 13 |
| | 農地 | 3 | 1 | 0 | 1 | 5 | 3 | 2 | 5 |
| | 道路 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| | 区画 | 1 | 2 | 3 | 5 | 11 | 3 | 3 | 6 |
| 説明・文字表示 | 解説板 | 10 | 4 | 5 | 11 | 30 | 9 | 15 | 24 |
| | 名称 | 2 | 1 | 1 | 2 | 6 | 1 | 2 | 3 |
| | 資料展示 | 3 | 0 | 2 | 1 | 6 | 4 | 2 | 6 |
| 計 | | 48 | 24 | 35 | 72 | 179 | 74 | 59 | 133 |

【自然的文脈】

| 記号表現 | 記号内容 | 立地環境 | | 小計 | スケール | | 小計 |
|---------|---------|------|----|----|--------|----|----|
| | | 地形 | 水系 | | 場所（公園） | 地域 | |
| 植生 | 自然植生 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| | 人工植生 | 7 | 2 | 9 | 3 | 6 | 9 |
| 動物・昆虫他 | | 3 | 5 | 8 | 3 | 5 | 8 |
| 構造物・施設 | モニュメント | 3 | 3 | 6 | 3 | 3 | 6 |
| | 建物他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| デザイン処理 | 視覚・土地利用 | 1 | 4 | 5 | 2 | 3 | 5 |
| | アクセス・隣接 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | 2 |
| 説明・文字表示 | 解説板 | 0 | 5 | 5 | 2 | 6 | 8 |
| | 名称他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | | 15 | 22 | 37 | 15 | 25 | 40 |

<コミュニティの拠点>

【拠点施設】

| 施設種 | 立地場所 | 立地（設置）場所 | | | | | 計 |
|------|------|----------|-----|-----|-------|------|----|
| | | 公園内 | 入口部 | 境界部 | 公園外隣接 | 公園周辺 | |
| 集会施設 | 事務所 | 7 | 6 | 0 | 0 | 0 | 13 |
| | 集会所 | 6 | 3 | 1 | 0 | 0 | 10 |
| | 椅子・机 | 20 | 3 | 1 | 0 | 2 | 26 |
| | その他 | 10 | 0 | 1 | 0 | 2 | 13 |
| 商業施設 | カフェ | 2 | 0 | 0 | 1 | 3 | 6 |
| | 直売所 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 3 |
| 計 | | 45 | 13 | 3 | 3 | 9 | 73 |

【情報発信】

| 発信形態 | 情報内容 | 公園歴史 | 地域歴史 | 公園自然 | 地域自然 | 活動案内 | その他 | 計 |
|------|----------|------|------|------|------|------|-----|----|
| | | | | | | | | |
| 情報提供 | 掲示板 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 5 |
| | 資料ストック | 3 | 4 | 1 | 3 | 9 | 0 | 20 |
| | 公園ガイド | 2 | 3 | 3 | 1 | 1 | 0 | 10 |
| | HP 他 | 10 | 9 | 5 | 2 | 0 | 0 | 26 |
| イベント | 祭り | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 |
| | コミュニティ活動 | 0 | 0 | 2 | 0 | 6 | 0 | 8 |
| | その他 | 1 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 5 |
| 計 | | 16 | 19 | 17 | 7 | 18 | 0 | 77 |

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 下村彰男 | 4. 巻 109 |
| 2. 論文標題 人々を迎える地域資源としての公園緑地 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 都市緑化技術 | 6. 最初と最後の頁 2-5 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Akio SHIMOMURA, Ming LIU | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 Unique Characteristics of Local Landscape and Its Sustainable Management in Japan, | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Landscape Architecture Journal（風景園林：中国） | 6. 最初と最後の頁 109-118 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|